認定医ケースプレゼンテーション抄録

磁性アタッチメントを用いたインプラント・オーバーデンチャー症例

山縣 徹哉

A Case Report of Implant Overdenture Using Magnetic Attachment

Yamagata Tetsuya

I. 症例の概要

患者：62歳，女性。

初診：1999年8月4日。

主訴：義歯が緩く浮きあがる。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：1983年より7+7，7+7欠損に全部床義歯を使用してきたが，下顎義歯のさらなる安定を希望され，1989年に下顎オトガイ孔間にインプラント体（カルシテック製インテグラル™ 13.0 mm，φ 3.25 mm）4本を埋入した。1990年にO-Ringと内冠タイプのアタッチメントを併用してオーバーデンチャーを装着した。以後，アタッチメント部の緩みや維持力の低下が続いたが，調整により安定が得られたので，1997年にリコールとした。その後，今回の主訴で来院した（図1）。

現症：O-Ringアタッチメントの劣化と粘膜面不適合および人工歯の咬耗が認められた。

II. 診断と治療方針

診断：アタッチメントの選択不適および下顎義歯の不適合。

治療方針：リジッドな特性のミリングバーアタッチメントと第三世代の磁性アタッチメントを併用した構造に変更する¹⁾。経年的変化に対応するため，リベースや修理の際，アタッチメントとオーバーデンチャー

の位置関係を確認できるように，マグネット相当部の義歯のメタルフレームを穴あき型とする。

III. 治療内容

1999年に磁性アタッチメントによるバー連結型のアタッチメントに変更し，オーバーデンチャーを新製装着した（図2）。アタッチメントの維持力はO-Ring 2個で900 gであったが，マグネット（マグフィット™ EX 600 W，ジーシー）5個に変更したので，3 kgと増加した。またO-Ringのゴムの劣化による維持力の早期低下は，マグネットで持続的に維持が発揮され防止された。また，アタッチメントの交換回数が少なくすむため，来院回数が減少した。アタッチメントの支持力不足は，バー上面で負担する構造でインプラント支持の割合を増加させた。アタッチメントの緩みは連結型のバーで防止された。予後良好となり6か月ごとの定期診査とした。

IV. 経過観察と考察

バーアタッチメントおよびオーバーデンチャーを新製装着後，定期診査には応じなかったが，2002年に上顎義歯の人工歯脱離および下顎義歯の粘膜面不適合，マグネットの吸着力低下が認められた。人工歯脱離を修理しマグネットを交換した。粘膜面不適合部を粘膜調整材でダイナミック印象後，咬合圧でウォッシュ印象し間接リベースを行った（図3 a, b）。予後良好となり3か月ごとの定期診査とした。

患者の主観的評価を満足度と咀嚼評価で行った²⁾。旧義歯の満足度は65点で，新義歯は90点であったの

昭和大学歯学部高齢者歯科学教室
Department of Geriatric Dentistry, Showa University School of Dentistry

図 1 Intraoral view at the first visit and mandibular overdenture
初診時の口腔内観と下顎オーバーデンチャー

図 2 Intraoral views and orthopantomography after prosthetic treatment
補綴治療後の口腔内写真とパノラマX線写真

で大幅な満足度の増加が認められた。また、咀嚼評価は旧義歯および新義歯修理前、修理後すべて75点で変化は認められなかった。

本アタッチメントの利点は、バーアタッチメントと

図 3 Implant overdenture appliance at three years after treatment

a : Bite pressure impression

b : Indirect rebase

補綴治療終了3年後のインプラントオーバーデンチャー

a : 咬合圧印象

b : 間接リベース

メタルフレームの適合の確認が容易であり、咬合採得が確実に行える点で、臨床的には着脱が容易、支持力が大きい点である。さらに、修理も簡便かつ確実に行える点である。このようなことから本アタッチメントに変更したことは、有効な手段であったと思われる。今後、定期的なリコールを徹底する必要があると思われる。

文 献

- 1) 瀬沼壽尉, 山縣徹哉, 佐藤裕二ほか. 磁性バーアタッチメントを用いたインプラントオーバーデンチャー症例. 日口腔インプラント誌 16 : 295-299, 2003.
- 2) Sato Y, Hamada S, Akagawa Y et al. A method for quantifying overall satisfaction of complete denture patients. J Oral Rehabil 27 : 952-957, 2000.